

3 食酢を用いたレタスビッグベイン病の防除技術

ねらいと成果

食酢は特定防除資材（特定農薬）として登録されており、安全性の高い防除資材として注目を浴びている。しかし、空気伝染性病害に対しての適用事例は多いが、土壌病害の事例は皆無である。そこで、レタスビッグベイン病に対して、食酢のかん注処理の有効性について検討し、実際の農業生産現場で活用するための適応技術を開発した。

内容

南あわじ市のレタスビッグベイン病少発生ほ場と多発生ほ場の2か所を選定し防除試験を行った。いずれのほ場においても、食酢は、市販されている醸造酢を用いた。レタス苗の定植直後に根付け水の代わりに100倍に希釈した食酢、株当たり1.5リットルを株元にかん注処理した。

ビッグベイン病の発生の少ないほ場では発病をほぼ完全に防ぐことができ、高い効果が得られた。多

発生のは場では化学農薬と比べると効果が劣るが防除価48と発病抑制効果を示し、生育障害も認められず、商品化率の低下を防ぐことができた。（表1、2）。また、本防除法の経費は、市販の穀物酢を用いると、10a当たり4000円程度であった。

普及上の留意事項

食酢を用いる場合、処理時の土壌条件は、降雨後や土壌水分の過度な状況ではかん注液が浸透しないため、効果が現れない場合がある。このような状況での使用を避け、希釈液をできるだけ速やかに浸透させる様にする。

ビッグベイン病の初期発生ほ場や発生の少ないほ場では食酢のみで防ぐことができるが、中発生以上の圃場では、耕種的な手法と組み合わせて汚染程度を低くしてから処理する必要がある。

相野 公孝（農業技セ・病害虫防除部）
（問い合わせ先 : 0790-47-1222）

表1 食酢のレタスビッグベイン病に対する防除効果（少数発生ほ場）

処理名	発病株率(%)	発病度	防除価	商品化率(%)
食酢	0	0	100	100
チオファネートメチル水和剤	0	0	100	100
無処理	8.3	2.1	—	100

注) 耕種概要：は種 2005年11月10日、定植 2006年1月11日、トンネル栽培。食酢は100倍 1.5リットル/株、チオファネートメチル水和剤 1500倍 1.5リットル/株 それぞれ定植後株元にかん注した。表中の数字は1区20個体3反復の平均値で示した。発病度 = $((A*4+B*3+C*2+D)/N*4) * 100$ A：ビッグベイン症状が見られ、結球しない。B：ビッグベイン症状が見られ、結球するが出荷できない。C：ビッグベイン症状が見られ、小玉になるが出荷できる。D：ビッグベイン症状が見られ、結球には影響しない。調査月日：2006年3月29日

表2 食酢のレタスビッグベイン病に対する防除効果（多数発生ほ場）

処理名	発病株率(%)	発病度	防除価	商品化率(%)
食酢	49.3	12.4	48.8	98.3
チオファネートメチル水和剤	4.0	1.0	95.7	100
無処理	83.9	24.2	—	88.3

注) 耕種概要：は種 2005年10月5日、定植 10月31日。調査月日：2005年12月7日。散布方法、散布量及び発病度の計算は表1の注)と同様